



学校だより

令和6年 9月 2日

東京都立村山特別支援学校

校長 阿部 智子

〒208-0012

武蔵村山市緑が丘 1460 番地 1

電話：042-564-2781

「それぞれが頑張った夏であったということ」

とても暑い夏でした。「日中、体温と同じくらいの気温になり、夕方には豪雨に見舞われる。」というような天候の変化にも翻弄（ほんろう）されました。台風のために夏の旅行の予定を変更した人や、あきらめた人も多いのではないのでしょうか。8月最終週の1週間は、停滞する台風10号のために大気の状態が非常に不安定で、いつどこで土砂災害、河川の氾濫、浸水につながる大雨になるのか分からず、不安な日々を送っている方々がたくさんいました。

台風により被災された方々、停電の影響が続いている地域の方々、暑さと湿度の高さで体調を崩されている方々にお見舞い申し上げます。地震や台風災害など防災の意識を改めて感じた夏でした。

夏季休業を終え、新学期を迎えます。学び多き今年の夏を、2学期にどう生かして行くのかを整理して取り組んでいきたいと思えます。

【教職員の学びへの挑戦…アウトプットとインプットのバランスを考えた研修を行うことが重要】



7月31日（水）に外部へも発信して教材展示・ポスター発表会を行いました。特別支援学校、地域の小中学校からの参加者もあり、関心の高さを感じました。教材作成や、その教材を実際にどう活用していくのかという点での情報発信の方策として、学会でのポスター発表形式でまとめたものを掲示し、デモンストレーションを行い、実際の教材をどのように使用するかを、アピールし、ディスカッションします。発表者も自分の教材を見つめ直し、意見をいただくことで次の教材作成のヒントをつかむことができます。



また、8月29日（木）に武蔵村山病院から高田 大 Dr. にお越しいただき、「アレルギー疾患の理解と緊急時の対応方法について」というテーマで御講義をいただき、その後、エピペンの使用方法等、緊急時の対応について演習を行い、高田 Dr. にはアナフィラキシー想定搬送訓練の講評をいただきました。高田 Dr. には宿泊行事の引率 Dr. としても大変お世話になっています。たとえアレルギー疾患という診断がなかったとしても、体調や食べ合わせによって、アレルギー症状を発症するということが、まったくない

とは言えません。給食指導、摂食指導を行っている教職員が常に先の状況をみながら、対応を考えて行動するということを新学期前に再確認する時間となりました。

【第67回全国肢体不自由特別支援学校PTA 連合会総会及びPTA・校長会合同研究会「石川大会」】



金沢駅 鼓門（つづみもん）

8月19日（月）20日（火）に石川県立いしかわ特別支援学校を会場として全国の肢体不自由特別支援学校のPTAと校長、教員が参加する参集型の大会が行われ、私も、副校長、PTA会長、副会長とともに参加させていただきました。石川県立いしかわ特別支援学校は金沢市にあり、2024年1月1日午後4時10分に発生した能登半島地震による直接的な建物の倒壊等の被害は少なかったとはうかがいしましたが、常に予期せぬ余震に襲われる状況への恐怖は計り知れません。地震後の生活の変化の中で、PTAと学校がどのように子供たちの心と体に寄り添い、守り、育てているのかというお話を直接うかがい、共通のテーマで議論することで、全国の肢体不自由特別支援学校の、PTAの保護者の皆様と教員と校長が、情報交換できる大切な時間となりました。

写真は、荘厳な印象をもつ鼓門（つづみもん）です。金沢の伝統芸能である能楽で使われる鼓をイメージしたものだそうです。高さは13.7mあり、2本の太い柱に支えられた門構えは圧巻でした。金沢駅前はこのように力強く我々を迎えてはくれましたが、石川県全体の復興はまだまだこれからであり、災害に対して自分事として考えることを忘れてはならないのだと強く思った大会となりました。

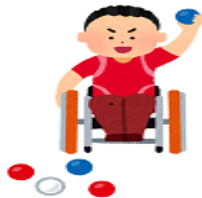
【観点別学習評価の考え方・・・個別指導計画 前期評価・後期計画の個別面談に向けて】

学習指導要領では、育成を目指す資質・能力が、三つの柱で示されるようになったと、5月号でお話しいたしました。それに合わせて学習評価の観点も三つに整理されたことについて、考え方の一つの例として「ボッチャ」で例えてみます。子供たちの学ぶ力・考える力を育成する機会は、学校生活、日常生活の中にたくさんあります。



知識・技能

ボッチャで使う用具（ボール、ランプ、リリーサー）やコートに関する**知識**、寄せる・弾く等の投球の**技能**が必要です。初歩的な知識・技能を身に付けることで、勝敗に関係なく、みんなで楽しむことができます。



思考・判断・表現

相手に勝ちたいという思いをもち試合を上手に進めるには、段取りを考え、状況に応じた戦略を組み立てる**思考・判断**、また、相手を意識したチームメイトとのコミュニケーションの**表現**も必要です。どうしたら？を考えます。



主体的に学習に取り組む態度

練習での失敗や試合での駆け引きを思い出して振り返り、みんなが応援して喜んでくれたから「今度はこうしてみよう」「あの練習がやりたい」と次の活動への動機付けが生まれてくれば**主体的に学習に取り組む態度**が育っているとと言えます。以前やったことを使って次に生かしていく過程が大切です。

今年度前期の各教科の評価については、このような三つの観点で、個別指導計画の評価をしています。児童・生徒が教科等の学習において「知識・技能」として身に付けた力をどのように「思考・判断・表現」し、他の学習や生活の中に生かそうとしているかを観点別に記載しています。前期に取り組めたことを後期のねらいにどのように反映させていくのか、ぜひ個別面談時に御確認ください。



本校では、2学期の授業に向けた教職員の研究活動として徹底した年間指導計画の見直しを図っています。

学習指導要領を読み込み、バランスの良い授業構成で、授業づくりをするため「村山シラバス」の作成に取り組んでいます。子供たちの主体的に

学習に取り組む態度をしっかりと評価していくためには、子供の学習習得状況をしっかりと把握しておく必要があります。子供たちと向き合い、チームで授業づくりを行い、多角的な視点をもち研究活動を進めています。



台風10号の大雨で、緑が丘校舎の裏の畑は水はけが悪く、池のようになっているところもありました。それでもヒマワリは元気よく、ゴーヤのカーテンは青々と子供たちが登校しているのを待っているかのようです。

校長 阿部 智子